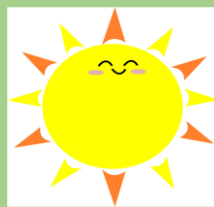


山五小

おひさま通信



2月号①

山形市立第五小学校
平成 28 年 2 月 26 日
校長 三 森 聡

みんなの協力で集まった

ペットボトルキャップ **98.4kg**

—「エコキャップ推進運動」環境委員会—



エコキャップ贈呈式

ペットボトルキャップのリサイクルによる収益金で、開発途上国の子ども達にワクチンを届けようと児童会の環境委員会を中心に収集したキャップの重さは、何と**98.4kg**もありました。それぞれ袋に入れたそのキャップを持ち上げてみると、一人では持つことができませんでした。

2月18日 山形銀行東原支店長さんをお迎えして贈呈式を行いました。プラスチックの現在の相場価格によりますと6.7kgで一人分のポリオワクチン(20円分)が購入できるということでしたので、**約14人分の子ども達の命を救う**ことができたということになるようです。村山特別支援学校山形校の皆さんにも協力をいただきました。また、わざわざ学校に届けてくださったたくさんの保護者や地区の方々に感謝申し上げます。



ペットボトルのキャップを抱える児童会環境委員と山形銀行の方々

「いざという時の避難所支援を考える！」

—第5地区の赤十字の活動として—

〈だがしや楽校 2.20〉

地区のJRC団体との連携として、児童会ジュニプロ5・6年生のメンバーが、炊き出しや防災カルタ、ペットボトルを使ったボーリングなど、いざという時に役立つ避難所支援の体験活動のお手伝いをしました。



「防災カルタ」で防災意識の啓発を図る

第五地区のお爺さん・お婆さんとの交流会 1.25

いっぱい いっぱい お話できたよ！！
—「フラワー小姓町」を訪ねて 6年生 —



お婆さんとの間に入ってカルタを楽しむ6年生



ここにこして僕たちの話を聞いてくれたよ

第五地区のお年寄りの方との交流として、6年児童50名が、共同生活介護事業所「フラワー小姓町」を訪ねました。施設に入った6年生は、最初緊張してどのように関わっていいのかわかっていませんでしたが、カルタや肩もみなどをして交流していくうちに、自分の家のお爺ちゃんやお婆ちゃんかのように、自然にお話をして交流することができました。お婆さんの中には、五小出身の方もおられ、昔の五小のことや歌を教えてくださいました。6年生にとって、今回の訪問では「初めて会った方への関わり方について」とても勉強になったそうです。機会があればまた訪問してみたいと子ども達は言っていました。「フラワー小姓町」の職員・入所者の皆様方に深く感謝申し上げます。

児童会伝統の 黄金の鍵が手渡されました

—児童会引き継ぎ式 2.16—

「五小思草」の旗を掲げ「あいさつリレー」のアイデアを出したり、委員会ごとにみんなが楽しめるよう工夫したりして1年間引っ張ってきてくれた6年生から「黄金の鍵」が5年生にバトンタッチされました。

5年ジュニプロ委員長の田中大翔さんは、その『黄金の鍵』を思い切り両手で掲げながら、「これまで学校を引っ張ってきてくれた6年生にかわって、今度は僕たちが、楽しい学校をつくっていきます！」と声高らかに宣言をしました。その姿を見つめる6年生は安心したようで温かい拍手を返してくれました。



児童会を牽引してきた6年のリーダー



五小児童会伝統の『黄金の鍵』を掲げて！